

中学生の教員への期待特性・認知特性と自己の認知特性、 および学力との関連

The Relationships between Expectation and Cognitive Characteristics for Teachers of Junior High School Students, Their Cognitive Characteristics, and Academic achievement.

中 井 真由美

Mayumi NAKAI

(岸和田市立土生中学校)

米 澤 好 史

Yoshifumi YONEZAWA

(和歌山大学教育学部心理学教室)

2018年10月21日受理

要約

本研究は、中学生の教員の特性に対する期待や実際の教員の特性に対する認知と、生徒自身の自尊感情や自己有用感といった自己の認知特性とが、学力との間にどのような関連があるかについて明らかにしたものである。「教員の期待特性尺度」は、本研究の予備調査において新たに作成したものをを用いた。また、教科を好きや得意と感じているか、相談できる人や助けてくれる人がいると思うかといった気持ちの部分に焦点をおき、それらと学力との関連についても検討している。

キーワード：教員への期待・認知、自尊感情、自己有用感、学力、相談できる・助けてくれる存在

1. 問題と目的

例年4月に実施される全国学力・学習状況調査において、筆者の勤務する岸和田市の小中学校では、軒並み、全国はもちろん大阪府の平均正答率をも下回っており、特にB問題と理科に課題が残る結果が示されている。岸和田市教育委員会では、府の推進する授業改善、評価の見直しや力だめしプリントの活用に加え、「家庭学習のてびき」の作成、「自学ノート」への取り組みなど独自の方法を試みている。これらの影響もあり、家庭学習の時間や家庭内で学習の話をする機会が増えた、子どもたちの意欲を高めることができたなどの効果が報告され、学習状況調査結果からも、授業改善の状況や児童生徒の自学自習の習慣化がうかがえるが、得点の向上には反映できていない現状があり、学力の向上は、喫緊の課題の1つでもある。

一方で、岸和田市は、地域柄地元の祭礼行事が盛んであり、人と人とのつながりや人情を大切にする傾向がある。このことは、教員との関係においても同様で、心のつながりは生活指導面・学習指導面の両方において重要な鍵となると考えられる。

金田・岡(2006)は、小学校の算数科の授業において、学力や学習意欲を高める指導法の検討を行っている。結果、学力低群では、教えず考えさせる授業より、教えて考えさせる授業の方が学力を有意に保持できることが、また、学力低群・高群の両者において、教えて

考えさせる授業が、学習意欲を高めるために効果的であることが明らかとなった。

石田・神谷(2014)は、中学生の定期テストの結果による、その後の学習意欲・学習行動の変化について調べている。テストの結果評価が、平均点を上回った場合のみ、成績上位群が有意にテスト後の学習意欲・積極的学習行動が多くなり、逆に、成績下位群は消極的学習行動が有意に多くなることが示されている。

濱上・米澤(2008)は、「やる気」の構造に関する研究を行っている。やる気は、「学習成果欲求」・「努力希求」・「積極的関わり」・「自己の集団適応行動」・「家庭学習」の5因子構造で示され、「家庭学習」以外の4つの因子と教師の「受容的かわり」、学級雰囲気「クラスの集団適応」・「楽しい居場所」、学習観の「学習目標・協同学習」との間に中程度の正の相関が確認されている。また、教師が理想とするほど児童のやる気は高くないことも示されている。

米澤(2015a；b)は、学校現場におけるこどもとこどもを取り巻く環境への支援として、愛着修復プログラムによる愛着形成を目指した支援の重要性を述べている。この中で、こどもへの援助的かわりは、とすると、目先の行動に気を取られ、スキル重視の援助・支援に陥りやすいことが指摘されている。援助・支援の際には、こどもの感情学習を優先することで、認知そのものを喚起させ行動変容へとつなげ、感情的基盤

を前提として新たな気づき(認知)により、次の行動変容をもたらすという、援助・支援の重要なポイントとなるモデルが示されている。これを、学習面に置き換えると、よりわかりやすい教材、教具、教授法などの改善は必要なことではあるが、スキル面にのみに力を注ぐのではなく、生徒の学びたい、学ぼうという気持ちを引き出すことの重要性を示唆していると考えられる。

菅・片田(1987)は、生徒の個別指導に着目した“よい教師像”についての研究がなされている。“よい教師像”には、「やさしさ因子」・「きびしさ因子」・「指導力因子」・「学識⇄活動力因子」・「親しみやすさ因子」・「軽快さ因子」の6因子が抽出され、“よい教師像”は教師の能力だけでなく、性格や態度との関係が深いこと、実際の指導場面によって、重要とされる特性が異なることが明らかとなった。

小柴・武田・村瀬(2014)は、「教職実践演習」カリキュラム開発を目的とした中・高校生が求める理想の教師像の調査を行っている。その結果、20項目中、「わかりやすい授業をしてくれる先生」、「生徒とのコミュニケーションを上手にとることができる先生」、「クラスをまとめることができる先生」、「だれに対しても笑顔で明るくかかわる先生」の4位までが、中・高校生ともに同じ順位であった。また、「豊かな教養を備えた先生」は男子が女子よりニーズが高かったが、他のすべての項目で女子のニーズが男子より高い傾向があることが示されている。

森下・坂本(2014)は、大学生を対象に、小学校高学年の担任教師のうち、自分自身がよく指示に従っていた教師1名を想起させる回想法により、教師の潜在的影響力を調べている。結果からは、男女ともに、「受容・親近」に次いで「自信・一貫性」が高く、「正当性・罰」や「威圧感」は有意に低いことから、親しみやすく受容的な態度の教師の指示に従おうとする傾向が明らかとなった。

先行研究から、学力の向上には、指導法だけではなく、結果評価法、学習意欲の向上等は不可欠であることが確認された。それに加え生徒と教員との関係性が非常に重要な鍵となっており、生徒が認知する教員特性が、学習意欲に影響を与え、将来における関係性にまで大きくかかわっていることもわかった。

また、栃木県総合教育センター(2013)は、いじめや不登校、規範意識、学力・学習意欲の改善を目的とした調査から、他者との関係の希薄化や子どもの自信のなさについて課題があるとし、他者や集団との関わりの中で「認められる」ことで育まれると考えられる「自己有用感」の重要性を示した。一方、文部科学省国立教育政策研究所生徒指導・進路指導研究センター(2015)によると、「自尊感情」は自分に対する自己評価が中心であり、「褒められる」ことで育つとされてい

る。他者の存在を前提としない自己評価は、社会性への直接の影響はないものの、「自己有用感」に裏付けられた「自尊感情」は大切であるとされている。

以上を踏まえ本研究の目的は、中学生の教員への期待特性、実際に担当する教員に対する認知特性、そして、自尊感情や自己有用感といった生徒自身の自己認知特性と学力がどのように関連するのかを明らかにすることである。同時に、教科に対する好きや得意と思う気持ちとの関連、教員への期待特性と認知特性間のギャップによる影響、生徒の性別や、相談者・援助者の存在の有無に対する認知による差についても分析している。なお、本研究では、実態ではなく、生徒がどのように思っているのか、どのように感じているかなど「認知」の部分に焦点をあてている。

2. 研究

2.1. 目的

本研究の目的は、生徒がどのような教員を望んでいるかという「教員への期待特性」(case 1)と、実際の担当教員が生徒にとりどのように認知されているかという「教員への認知特性」(case 2)、生徒自身の自尊感情・自己有用感といった自己の認知特性と、学力との間にどのような関連があるのかを明らかにすることである。また、教科に対する「好き」や「得意」と思う気持ちとの関連、期待特性と認知特性間のギャップによる影響、生徒の性別や、相談者・援助者の存在の有無に対する認知による差についても分析する。

2.2. 方法

2.2.1. 質問紙構成

フェースシートに、クラス・出席番号・性別・部活動に関しての記入を求め、「教員の期待特性尺度」・「教員の認知特性尺度」(5教科)・「自尊感情尺度」・「自己有用感尺度」と、各教科を「好き」・「得意」と思うか、相談できる人の有無・助けてくれる人の有無についてどう思うかの回答を求めた。

①「教員への期待特性尺度」・「教員への認知特性尺度」

菅・片田(1987)により作成された“よい教師像”に関する尺度、佐々木(1988)により作成された「好きな先生のタイプ」に関する尺度を参考に、大学院生3名、中学校教員11名と協議の上新たに作成した。また、「教員への認知特性尺度」は、「教員への期待特性尺度」の因子分析の結果を用い、項目はそのまま各因子の平均得点を計算して使用した。

②「自尊感情尺度」

田邊・米澤(2009)によって作成されたものをもとに、中学生にわかりやすいよう一部変更して用いた。自己効力感・自己受容感の2因子構造となっている。

③「自己有用感尺度」

栃木県総合教育センター(2013)が開発したものの中で、「クラス」・「先生」との関係性の項目のみ使用し、項目ごとに「～と思う」という表現に変更し使用した。存在感、貢献、承認の3因子構造となっている。

回答は「たいへんあてはまる」(4点)・「まああてはまる」(3点)・「あまりあてはまらない」(2点)・「まったくあてはまらない」(1点)の4段階評定とした。

2.2.2. 調査協力者

大阪府内の公立中学校に在籍する生徒計563名(第1学年187名・第2学年186名・第3学年190名／男子生徒288名・女子生徒275名)

2.2.3. 調査時期

2017年10月

2.2.4. 手続き

質問紙はクラスごとに担任から配布され、回答時間はおよそ30分として全校一斉に行われた。学力は、直近に実施された2学期中間考査の5教科計(国語・社会・数学・理科・英語)の得点を用いた。

2.3. 結果

2.3.1. 因子分析

①「教員への期待特性尺度」の因子分析

主因子法・プロマックス回転による因子分析の結果、初期の固有値の大きさと、解釈のしやすさから因子数は3とした。回転後の各因子の負荷量をTable 1に示す。尺度項目は因子負荷量0.400を基準とした。

第1因子は、「3 親しみやすい先生」などの14項目

Table 1 「教員への期待特性尺度」の因子分析：回転後の因子負荷量(主因子法・プロマックス回転)

	因子1	因子2	因子3	共通性
3 親しみやすい先生	.944	-.286	.029	.426
10 クラス全体のことを理解してくれる先生	.778	-.026	.040	.463
7 認めてくれる先生	.761	.045	.066	.618
15 相談しやすい先生	.721	.061	-.023	.552
1 あこがれるような先生	.676	-.099	.104	.332
27 約束を守る先生	.657	.189	-.034	.498
24 授業がわかりやすい先生	.655	.193	-.180	.653
19 おもしろい先生	.650	.099	-.097	.374
17 優しい先生	.618	.306	-.200	.400
18 思いやりのある先生	.606	.299	-.049	.601
23 あたたかい先生	.567	.264	-.066	.428
21 ほめてくれる先生	.543	.244	-.047	.463
5 ひいきしない先生	.524	.067	.010	.431
2 熱心な先生	.511	-.191	.454	.402
6 けじめのある先生	.455	.011	.396	.571
14 元気な先生	.431	.230	.054	.495
16 真面目な先生	-.162	.562	.387	.674
20 几帳面な先生	-.117	.562	.343	.478
13 文字のきれいな先生	.221	.526	-.120	.481
8 言葉づかいの丁寧な先生	.062	.525	.092	.510
25 清潔感のある先生	.287	.474	.016	.209
22 おこらない先生	.063	.441	-.294	.560
11 知識の豊富な先生	.178	.427	.174	.563
4 きびしい先生	.048	-.166	.780	.428
12 こわい先生	-.270	.067	.710	.618
9 迫力のある先生	.042	.016	.610	.487
28 正義感の強い先生	.307	.277	.281	.641
26 指導に一貫性のある先生	.177	.324	.311	.500
固有値	10.918	2.097	.842	
因子寄与率	38.993	7.491	3.007	49.491
因子間相関		.681	.343	
			.391	

が負荷し、「受容的關係因子」と命名した。第2因子は、「16 真面目な先生」などの7項目が負荷し、「教育的姿勢因子」と命名した。第3因子は、「4 きびしい先生」などの3項目が負荷し、「厳しさ因子」と命名した。各因子下位尺度の信頼性分析の結果をTable 2に示す。

Table 2 「教員への期待特性尺度」の平均・標準偏差・ α 係数

	平均	標準偏差	α 係数
受容的關係因子	3.448	0.583	0.941
教育的姿勢因子	3.027	0.601	0.791
厳しさ因子	2.208	0.767	0.752

②「自尊感情尺度」の因子分析

主因子法・プロマックス回転による因子分析の結果、2因子が抽出された。得られた回転後の各因子の負荷量をTable 3に示す。

第1因子は、「2 わたしは、価値のある人間であると思うことがある。」などの5項目が負荷し、「ポジティブ因子」と命名した。第2因子には、「6 わたしは、自慢(じまん)できるところがあまりない。」などの5項目が負荷し、「ネガティブ因子」と命名した。各因子下位尺度の信頼性分析の結果をTable 4に示す。

Table 3 「自尊感情尺度」の因子分析：回転後の因子負荷量(主因子法・プロマックス回転)

	因子1	因子2	共通性
2 わたしは、価値のある人間であると思うことがある。	.852	.006	.660
1 わたしは、いろいろなところを持っていると思うことがある。	.810	-.005	.720
4 わたしは、自分のことに満足している。	.675	-.056	.260
9 わたしは、物事をうまくやりとげることができる。	.664	.063	.500
10 わたしは、今のままの自分でいいと思う。	.618	-.033	.453
6 わたしは、自慢(じまん)できるところがあまりない。	.035	.790	.594
7 わたしは、何かにつけて自分は役に立たない人間だと思う。	-.050	.766	.633
5 わたしは、自分のことを尊敬(そんけい)できない。	.075	.713	.505
8 わたしは、負け組だと思うことがある。	-.105	.646	.398
3 わたしは、自分がまったくだめな人間だと思うことがある。	-.007	.506	.406
固有値	4.045	1.085	
因子寄与率	40.448	10.851	51.299
因子間相関		-.564	

Table 4 「自尊感情尺度」の平均・標準偏差・ α 係数

	平均	標準偏差	α 係数
ポジティブ因子	2.485	0.705	0.849
ネガティブ因子	2.631	0.745	0.818

③「自己有用感尺度」の因子分析

主因子法・プロマックス回転による因子分析の結果、2因子が抽出された。得られた回転後の各因子の負荷量をTable 5に示す。

第1因子は、「20 わたしは、先生から信じられ、たよりにされていると思う。」などの7項目で、「先生との関係因子」と命名した。第2因子は、「11 わたしは、クラスみんなの役に立っていると思う。」などの7項目で、「クラスとの関係因子」と命名した。各因子下位尺度の信頼性分析の結果をTable 6に示す。

Table 5 「自己有用感尺度」の因子分析：回転後の因子負荷量(主因子法・プロマックス回転)

	因子1	因子2	共通性
20 わたしは、先生から信じられ、たよりにされていると思う。	.903	-.028	.710
24 わたしは、先生から認められていると思う。	.859	-.004	.778
23 わたしは、先生に感謝（かんしゃ）されていると思う。	.833	.065	.749
19 わたしは、先生にとって大切な人だと思う	.810	.046	.548
18 わたしは、先生の役に立っていると思う。	.810	.085	.645
21 わたしは、先生の手伝いができると思う。	.662	.096	.724
22 わたしは、先生がよくわかるような意見を言えると思う。	.641	.204	.755
11 わたしは、クラスのみんなの役に立っていると思う。	-.024	.861	.766
13 わたしは、クラスのみんなから信じられ、たよりにされていると思う。	.013	.856	.715
16 わたしは、クラスのみんなに感謝（かんしゃ）されていると思う。	.004	.848	.778
12 わたしは、クラスの中の大切な人だと思う。	.083	.818	.544
17 わたしは、クラスのみんなから認められていると思う。	.100	.791	.650
15 わたしは、クラスのみんながよくわかるような意見を言えると思う。	.108	.719	.781
14 わたしは、クラスのみんなの手伝いができると思う。	.180	.595	.732
固有値	8.944	.931	
因子寄与率	63.885	6.651	70.536
因子間相関		.755	

Table 6 「自己有用感尺度」の平均・標準偏差・ α 係数

	平均	標準偏差	α 係数
先生との関係因子	2.255	0.583	0.945
クラスとの関係因子	2.252	0.601	0.941

2.3.2. 各尺度間、5教科計との相関分析

①「教員への期待特性尺度」を用いた相関分析(case 1)
「教員への期待特性尺度」、「自尊感情尺度」、「自己有用感尺度」、5教科計との相関分析結果をTable 7に示す。

Table 7 「教員への期待特性尺度」を用いた各尺度間、5教科計との相関分析結果

	受容的關係因子	教育的姿勢因子	厳しき因子	ポジティブ因子	ネガティブ因子	先生との関係因子	クラスとの関係因子	5教科計
受容的關係因子	1	.697**	.219**	.273**	.055	.290**	.290**	.276**
教育的姿勢因子	.697**	1	.312**	.182**	.134**	.216**	.196**	.162**
厳しき因子	.219**	.312**	1	.153**	-.007	.166**	.192**	.116**
ポジティブ因子	.273**	.182**	.153**	1	-.478**	.642**	.754**	.248**
ネガティブ因子	.055	.134**	-.007	-.478**	1	-.387**	-.457**	-.082
先生との関係因子	.290**	.216**	.166**	.642**	-.387**	1	.771**	.187**
クラスとの関係因子	.290**	.196**	.192**	.754**	-.457**	.771**	1	.253**
5教科計	.276**	.162**	.116**	.248**	-.082	.187**	.253**	1

** p < .01, * p < .05

②「教員への認知特性尺度」を用いた相関分析(case 2)
case 1の「教員への期待特性尺度」のかわりに「教員への認知特性尺度」を用いた各尺度間、「好き」・「得意」と思う、5教科計との相関分析結果をTable 8に示す。「教員への認知特性尺度」は、「担当受容的關係因子」・「担当教育的姿勢因子」・「担当厳しき因子」と命名し、この3因子と5教科の「好き」・「得意」と思うのそれぞれ平均値を用いて分析を行い、「担当受容的關係因子平均」・「担当教育的姿勢因子平均」・「担当厳しき因子平均」と「好き平均」・「得意平均」と表記した。

③「教員への期待特性尺度」、「教員への認知特性尺度」、5教科計との相関分析
「教員への期待特性尺度」、「教員への認知特性尺度」、5教科計との相関分析結果をTable 9に示す。

Table 8 「教員への認知特性尺度」の5教科平均を用いた各尺度間、「好き平均」・「得意平均」、5教科計との相関分析結果

	担当受容的關係因子平均	担当教育的姿勢因子平均	担当厳しき因子平均	好き平均	得意平均	ポジティブ因子	ネガティブ因子	先生との関係因子	クラスとの関係因子	5教科計
担当受容的關係因子平均	1	.902**	.543**	.493**	.351**	.332**	-.045	.412**	.318**	.278**
担当教育的姿勢因子平均	.902**	1	.588**	.460**	.332**	.283**	-.002	.349**	.274**	.267**
担当厳しき因子平均	.543**	.588**	1	.232**	.168**	.130**	.110**	.167**	.159**	.126**
好き平均	.493**	.460**	.232**	1	.720**	.412**	-.146**	.331**	.350**	.385**
得意平均	.351**	.332**	.168**	.720**	1	.495**	-.245**	.392**	.419**	.468**
ポジティブ因子	.332**	.283**	.130**	.412**	.495**	1	-.478**	.642**	.754**	.248**
ネガティブ因子	-.045	-.002	.110**	-.146**	-.245**	-.478**	1	-.387**	-.457**	-.082
先生との関係因子	.412**	.349**	.167**	.331**	.392**	.642**	-.387**	1	.771**	.187**
クラスとの関係因子	.318**	.274**	.159**	.350**	.419**	.754**	-.457**	.771**	1	.253**
5教科計	.278**	.267**	.126**	.385**	.468**	.248**	-.082	.187**	.253**	1

** p < .01, * p < .05

Table 9 「教員への期待特性尺度」、「教員への認知特性尺度」、5教科計との相関分析結果

	担当受容的關係因子平均	担当教育的姿勢因子平均	担当厳しき因子平均	好き平均	得意平均
受容的關係因子	.542**	.521**	.271**	.291**	.232**
教育的姿勢因子	.423**	.505**	.359**	.211**	.201**
厳しき因子	.314**	.298**	.439**	.207**	.180**

** p < .01, * p < .05

2.3.3. 重回帰分析

①「教員への期待特性尺度」を用いた重回帰分析(case 1)
「教員への期待特性尺度」3因子を目的変数、「自尊感情尺度」・「自己有用感尺度」・5教科計を説明変数とした重回帰分析結果をTable10～Table12に示す。

Table10 「受容的關係因子」の重回帰分析結果

	標準化係数 β
先生との関係因子	0.221 **
5教科計	0.206 **
ネガティブ因子	0.253 **
ポジティブ因子	0.201 **
調整済み R^2	0.184

** p < .01, * p < .05

Table11 「教育的姿勢因子」の重回帰分析結果

	標準化係数 β
先生との関係因子	0.206 **
ネガティブ因子	0.302 **
ポジティブ因子	0.168 **
5教科計	0.106 **
調整済み R^2	0.126

** p < .01, * p < .05

Table12 「厳しき因子」の重回帰分析結果

	標準化係数 β
クラスとの関係因子	0.238 **
ネガティブ因子	0.102 **
調整済み R^2	0.041

** p < .01, * p < .05

「自尊感情尺度」2 因子を目的変数、「教員への期待尺度」・「自己有用感尺度」・5 教科計を説明変数とした重回帰分析結果をTable13、14に示す。

Table13 「ポジティブ因子」の重回帰分析結果

	標準化係数 β	
クラスとの関係因子	0.621	**
先生との関係因子	0.151	**
5教科計	0.062	**
調整済み R^2	0.578	

** $p < .01$, * $p < .05$

Table14 「ネガティブ因子」の重回帰分析結果

	標準化係数 β	
クラスとの関係因子	-0.409	**
教育的姿勢因子	0.241	**
先生との関係因子	-0.124	**
調整済み R^2	0.263	

** $p < .01$, * $p < .05$

「自己有用感尺度」2 因子を目的変数、「教員への期待尺度」・「自尊感情尺度」・5 教科計を説明変数とした重回帰分析結果をTable15、16に示す。

Table15 「先生との関係因子」の重回帰分析結果

	標準化係数 β	
ポジティブ因子	0.533	**
受容的關係因子	0.153	**
ネガティブ因子	-0.141	**
調整済み R^2	0.438	

** $p < .01$, * $p < .05$

Table16 「クラスとの関係因子」の重回帰分析結果

	標準化係数 β	
ポジティブ因子	0.638	**
ネガティブ因子	-0.158	**
受容的關係因子	0.110	**
厳しさ因子	0.069	**
調整済み R^2	0.595	

** $p < .01$, * $p < .05$

5 教科計を目的変数、「教員への期待尺度」・「自尊感情尺度」・「自己有用感尺度」を説明変数とした重回帰分析結果をTable17に示す。

Table17 5 教科計の重回帰分析結果(case 1)

	標準化係数 β	
受容的關係因子	0.222	**
クラスとの関係因子	0.188	**
調整済み R^2	0.106	

** $p < .01$, * $p < .05$

②「教員への認知特性尺度」を用いた重回帰分析 (case 2)

5 教科計を目的変数、「教員への認知特性尺度」の平均・「好き平均」・「得意平均」・「自尊感情尺度」・「自己有用感尺度」を説明変数とした重回帰分析結果をTable18に示す。

Table18 5 教科計の得点の重回帰分析結果(case 2)

	標準化係数 β	
得意平均	0.411	**
担当受容的關係因子平均	0.137	**
調整済み R^2	0.227	

** $p < .01$, * $p < .05$

「好き平均」と「得意平均」を目的変数、「教員への認知特性尺度」の平均・「自尊感情尺度」・「自己有用感尺度」・5 教科計を説明変数とした重回帰分析結果をTable19、Table20に示す。

Table19 「好き平均」の重回帰分析結果(case 2)

	標準化係数 β	
担当受容的關係因子平均	0.373	**
ポジティブ因子	0.226	**
5教科計	0.212	**
調整済み R^2	0.362	

** $p < .01$, * $p < .05$

Table20 「得意平均」の重回帰分析結果(case 2)

	標準化係数 β	
ポジティブ因子	0.363	**
5教科計	0.335	**
担当教育的姿勢因子平均	0.148	**
調整済み R^2	0.380	

** $p < .01$, * $p < .05$

2.3.4. 差に関する t 検定

①「教員への認知特性」と「教員への期待特性」とのギャップによる影響に関して

生徒がどのような教員を望んでいるかという「教員への期待特性」(case 1)と、実際の担当教員が生徒にとりどのように認知されているかという「教員への認知特性」(case 2)とのギャップによる影響を調べるため、以下のような手続きを行った。

まず、「教員への認知特性」3因子から、「教員への期待特性」3因子それぞれの因子得点を引き、その差を「受容的關係差」・「教育的姿勢差」・「厳しさ差」とし、差が0以上を「正群」、0未満を「負群」として群分けしt検定を行った。その結果をTable21～Table23に示す。

Table21 「受容的關係差正群」と「受容的關係差負群」の比較

	受容的關係差正群			受容的關係差負群		
	N	平均値	標準偏差	N	平均値	標準偏差
受容的關係因子	68	2.78	0.90	491	3.54	0.45
担当受容的關係因子	72	3.05	0.87	491	2.86	0.52
好き平均	71	2.60	0.88	489	2.58	0.64
得意平均	71	2.20	0.72	489	2.24	0.63
ポジティブ因子	71	2.47	0.89	484	2.49	0.67
ネガティブ因子	71	2.55	0.83	484	2.64	0.73
先生との関係因子	70	2.31	0.83	484	2.25	0.75
クラスとの関係因子	71	2.17	0.88	484	2.26	0.73
5教科計	71	239.90	133.24	487	308.87	114.85

** p<.01, * p<.05

Table22 「教育的姿勢差正群」と「教育的姿勢差負群」の比較

	教育的姿勢正群			教育的姿勢負群		
	N	平均値	標準偏差	N	平均値	標準偏差
教育的姿勢因子	212	2.67	0.63	347	3.25	0.46
担当教育的姿勢因子	216	2.99	0.57	346	2.73	0.49
好き平均	213	2.69	0.70	347	2.52	0.65
得意平均	213	2.28	0.62	347	2.20	0.65
ポジティブ因子	212	2.54	0.73	343	2.45	0.69
ネガティブ因子	212	2.52	0.71	343	2.70	0.76
先生との関係因子	211	2.32	0.74	343	2.21	0.77
クラスとの関係因子	212	2.29	0.76	343	2.23	0.74
5教科計	212	303.50	122.77	346	298.00	117.50

** p<.01, * p<.05

Table23 「厳しさ差正群」と「厳しさ差負群」の比較

	厳しさ差正群			厳しさ差負群		
	N	平均値	標準偏差	N	平均値	標準偏差
厳しさ因子	325	1.78	0.54	231	2.81	0.62
担当厳しさ因子平均	330	2.30	0.49	231	2.23	0.49
好き平均	329	2.52	0.68	231	2.68	0.65
得意平均	329	2.19	0.65	231	2.29	0.63
ポジティブ因子	329	2.45	0.73	226	2.53	0.67
ネガティブ因子	329	2.65	0.74	226	2.61	0.75
先生との関係因子	329	2.22	0.73	225	2.31	0.79
クラスとの関係因子	329	2.20	0.74	226	2.33	0.76
5教科計	329	293.43	119.47	229	309.67	119.03

** p<.01, * p<.05

②性別による差に関して

性別による差を調べるためにt検定を行った。分析結果をTable24に示す。また、それぞれの相関分析結果をTable25、Table26に示す。

Table24 性別による比較

	男 子			女 子		
	N	平均値	標準偏差	N	平均値	標準偏差
受容的關係因子	285	3.35	0.67	274	3.55	0.46
教育的姿勢因子	285	2.99	0.66	274	3.06	0.53
厳しさ因子	284	2.31	0.80	272	2.10	0.72
担当受容的關係因子平均	288	2.92	0.62	275	2.86	0.54
担当教育的姿勢因子平均	288	2.86	0.58	274	2.80	0.49
担当厳しさ因子平均	288	2.30	0.52	273	2.24	0.46
好き平均	286	2.65	0.71	274	2.52	0.63
得意平均	286	2.35	0.69	274	2.11	0.56
ポジティブ因子	282	2.63	0.72	273	2.34	0.65
ネガティブ因子	282	2.52	0.75	273	2.74	0.72
先生との関係因子	282	2.38	0.78	272	2.12	0.72
クラスとの関係因子	282	2.40	0.78	273	2.10	0.68
5教科計	286	299.75	125.96	272	300.45	112.44

** p<.01, * p<.05

Table25 男子生徒の各尺度間、5教科計の相関分析結果

受容的關係因子	教育的姿勢因子	厳しさ因子	担当受容的關係因子平均	担当教育的姿勢因子平均	担当厳しさ因子平均	好き平均	得意平均	ポジティブ因子	ネガティブ因子	先生との関係因子	クラスとの関係因子	5教科計
1	.785**	.374**	.655**	.618**	.370**	.432**	.339**	.424**	-.047	.406**	.416**	.338**
教育的姿勢因子	.785**	1	.406**	.514**	.577**	.413**	.317**	.271**	.321**	.133*	.352**	.346**
厳しさ因子	.374**	.406**	1	.335**	.317**	.459**	.225**	.162**	.195**	-.020	.271**	.278**
担当受容的關係因子平均	.655**	.514**	.335**	1	.919**	.556**	.578**	.425**	.443**	-.059	.470**	.402**
担当教育的姿勢因子平均	.618**	.577**	.317**	.919**	1	.603**	.527**	.395**	.391**	-.004	.425**	.362**
担当厳しさ平均	.370**	.413**	.459**	.556**	.603**	1	.262**	.205**	.219**	.081	.247**	.256**
好き平均	.432**	.317**	.225**	.578**	.527**	.262**	1	.736**	.471**	-.130*	.420**	.434**
得意平均	.338**	.271**	.162**	.425**	.392**	.209**	.736**	1	.503**	-.220**	.437**	.462**
ポジティブ因子	.424**	.321**	.195**	.443**	.391**	.219**	.471**	.503**	1	-.385**	.668**	.769**
ネガティブ因子	.047	.133*	-.020	-.059	-.004	.081	-.130*	-.220**	-.385**	1	-.301**	-.331**
先生との関係因子	.406**	.352**	.271**	.470**	.425**	.247**	.420**	.437**	.668**	-.301**	1	.796**
クラスとの関係因子	.419**	.346**	.278**	.402**	.362**	.256**	.434**	.462**	.769**	-.331**	.796**	1
5教科計	.338**	.236**	.187**	.325**	.312**	.181**	.334**	.467**	.246**	-.068	.253**	.275**

** p<.01, * p<.05

Table26 女子生徒の各尺度間、5教科計の相関分析結果

受容的關係因子	教育的姿勢因子	厳しさ因子	担当受容的關係因子平均	担当教育的姿勢因子平均	担当厳しさ因子平均	好き平均	得意平均	ポジティブ因子	ネガティブ因子	先生との関係因子	クラスとの関係因子	5教科計
1	.540**	.040	.398**	.396**	.135*	.112	.143*	.150*	.007	.210**	.198**	.185**
教育的姿勢因子	.540**	1	.204**	.295**	.403**	.287**	.071	.126*	.022	.120*	.059	.016
厳しさ因子	.040	.204**	1	.275**	.263**	.407**	.163**	.158**	.049	.049	-.007	.031
担当受容的關係因子平均	.398**	.295**	.275**	1	.878**	.520**	.375**	.235**	.178**	-.012	.330**	.194**
担当教育的姿勢因子平均	.396**	.403**	.263**	.878**	1	.563**	.361**	.235**	.126*	.019	.242**	.139*
担当厳しさ平均	.135*	.287**	.407**	.520**	.563**	1	.183**	.090	-.009	.168**	.049	.008
好き平均	.112	.071	.163**	.375**	.361**	.183**	1	.692**	.312**	.137**	.191**	.205**
得意平均	.143*	.126*	.158**	.235**	.235**	.090	.692**	1	.439**	.231**	.283**	.302**
ポジティブ因子	.150*	.022	.049	.178**	.126*	-.009	.312**	.439**	1	-.556**	.579**	.708**
ネガティブ因子	.007	.120*	.049	-.012	.019	.168**	-.137*	.231**	-.556**	1	-.453**	-.578**
先生との関係因子	.210**	.059	-.007	.330**	.242**	.049	.191**	.283**	.579**	-.453**	1	.722**
クラスとの関係因子	.198**	.016	.031	.194**	.139*	.008	.209**	.302**	.708**	-.578**	.722**	1
5教科計	.185**	.054	.028	.217**	.206**	.050	.451**	.488**	.200**	-.102	.111	.236**

** p<.01, * p<.05

③相談できる人の有無に関して

相談できる人がいると思うかいないと思うかによる差を調べるためにt検定を行った。分析結果をTable27に示す。また、それぞれの相関分析結果をTable28、Table29に示す。

Table27 相談できる人の有無による比較

	相談できる人あり			相談できる人なし		
	N	平均値	標準偏差	N	平均値	標準偏差
受容的關係因子	483	3.50	0.50	66	3.01	0.90
教育的姿勢因子	483	3.08	0.56	66	2.63	0.74
厳しさ因子	481	2.23	0.77	65	1.98	0.72
担当受容的關係因子平均	485	2.94	0.54	67	2.53	0.72
担当教育的姿勢因子平均	484	2.87	0.50	67	2.54	0.70
担当厳しさ因子平均	483	2.29	0.47	67	2.13	0.61
好き平均	483	2.62	0.66	66	2.31	0.71
得意平均	483	2.27	0.65	66	1.96	0.57
ポジティブ因子	485	2.55	0.68	67	1.98	0.67
ネガティブ因子	485	2.58	0.72	67	2.94	0.83
先生との関係因子	484	2.31	0.75	67	1.89	0.72
クラスとの関係因子	485	2.32	0.74	67	1.75	0.65
5教科計	482	308.68	115.87	65	233.29	125.68

** p<.01, * p<.05

Table28 相談できる人ありの各尺度間、5教科計の相関分析結果

受容的關係因子	教育的姿勢因子	厳しさ因子	担当受容的關係因子平均	担当教育的姿勢因子平均	担当厳しさ因子平均	好き平均	得意平均	ポジティブ因子	ネガティブ因子	先生との関係因子	クラスとの関係因子	5教科計
1	.640**	.196**	.475**	.437**	.215**	.231**	.177**	.214**	-.017	.234**	.230**	.193**
教育的姿勢因子	.640**	1	.293**	.351**	.437**	.322**	.140**	.150**	.129**	.115*	.178**	.150**
厳しさ因子	.196**	.293**	1	.298**	.273**	.418**	.164**	.129**	.120**	-.016	.149**	.171**
担当受容的關係因子平均	.475**	.351**	.298**	1	.892**	.510**	.463**	.318**	.305**	-.057	.386**	.288**
担当教育的姿勢因子平均	.437**	.437**	.273**	.892**	1	.553**	.414**	.300**	.256**	-.018	.330**	.251**
担当厳しさ平均	.215**	.232**	.418**	.510**	.553**	1	.166**	.126**	.097	.137**	.142**	.131**
好き平均	.231**	.140**	.164**	.463**	.414**	.166**	1	.710**	.420**	-.182**	.333**	.345**
得意平均	.177**	.159**	.129**	.318**	.300**	.126**	.710**	1	.472**	-.259**	.378**	.396**
ポジティブ因子	.214**	.129**	.120**	.305**	.256**	.097	.420**	.472**	1	-.468**	.620**	.729**
ネガティブ因子	.017	.115*	-.016	-.057	-.018	.137**	-.182**	-.259**	-.468**	1	-.384**	-.444**
先生との関係因子	.234**	.178**	.149**	.386**	.330**	.142**	.333**	.378**	.620**	-.384**	1	.765**
クラスとの関係因子	.230**	.150**	.171**	.388**	.251**	.131**	.345**	.396**	.729**	-.444**	.765**	1
5教科計	.193**	.083	.080	.231**	.210**	.042	.362**	.449**	.218**	-.101*	.160**	.229**

** p<.01, * p<.05

Table29 相談できる人なしの各尺度間、5教科計の相関分析結果

受容の関係因子	教育的姿勢因子	厳しさ因子	担当受容の関係因子平均	担当教育的姿勢因子平均	担当厳しさ因子平均	好き平均	得意平均	ポジティブ因子	ネガティブ因子	先生との関係因子	クラスとの関係因子	5教科計	
受容の関係因子	1	.840**	.257**	.652**	.685**	.391**	.423**	.359**	.245**	.414**	.379**	.327**	.421**
教育的姿勢因子	.840**	1	.312**	.571**	.667**	.447**	.428**	.276*	.092	.484**	.193	.113	.342**
厳しさ因子	.257**	.312**	1	.295**	.332**	.500**	.328**	.395**	.187	.226	.101	.113	.232
担当受容の関係因子	.652**	.671**	.295**	1	.933**	.650**	.567**	.415**	-.187	.241**	.384**	.197	.331**
担当教育的姿勢因子	.685**	.667**	.332**	.933**	1	.694**	.581**	.404**	-.162	.283*	.286*	.139	.371**
担当厳しさ平均	.391**	.447**	.500**	.650**	.694**	1	.437**	.295*	.139	.112	.188	.158	.445**
好き平均	.423**	.428**	.328**	.567**	.581**	.437**	1	.739**	.207	.258*	.150	.151	.389**
得意平均	.359**	.276*	.395**	.412**	.404**	.295*	.739**	1	.536**	.043	.339**	.392**	.463**
ポジティブ因子	.245*	.092	.187	.187	.162	.139	.207	.536**	1	-.420**	.662**	.797**	.134
ネガティブ因子	.414**	.484**	.226	.241*	.283*	.112	.258*	.043	-.420**	1	-.267*	-.390**	.256
先生との関係因子	.379**	.193	.101	.384**	.286*	.188	.150	.339**	.662**	-.267*	1	.732**	.129
クラスとの関係因子	.327**	.113	.113	.197	.139	.158	.151	.392**	.797**	-.390**	.732**	1	.165
5教科計	.421**	.342**	.232	.331**	.371**	.445**	.369**	.463**	.134	.256*	.129	.165	1

*.01 < p < .05

④助けてくれる人の有無に関して

助けてくれる人がいると思うかいないと思うかによる差を調べるためにt検定を行った。分析結果をTable 30に示す。また、それぞれの相関分析結果をTable 31、Table32に示す。

Table30 助けてくれる人の有無による比較

	助けてくれる人あり			助けてくれる人なし			t 値
	N	平均値	標準偏差	N	平均値	標準偏差	
受容的關係因子	485	3.51	0.52	62	2.97	0.84	4.93 **
教育的姿勢因子	485	3.08	0.57	62	2.62	0.71	4.84 **
厳しき因子	482	2.24	0.76	62	1.95	0.73	2.84 **
担当受容的關係因子平均	488	2.94	0.55	62	2.49	0.68	5.89 **
担当教育的姿勢因子平均	487	2.88	0.51	62	2.52	0.65	4.99 **
担当厳しき因子平均	486	2.29	0.48	62	2.11	0.59	2.81 **
好き平均	486	2.64	0.65	61	2.21	0.70	4.77 **
得意平均	486	2.29	0.64	61	1.79	0.52	5.84 **
ポジティブ因子	488	2.57	0.67	62	1.82	0.57	8.42 **
ネガティブ因子	488	2.58	0.72	62	3.00	0.84	-3.80 **
先生との関係因子	487	2.34	0.74	62	1.66	0.58	6.93 **
クラスとの関係因子	488	2.34	0.73	62	1.58	0.55	8.05 **
5教科計	486	309.88	115.77	59	214.61	118.16	5.96 **

** p < .01, * p < .05

Table31 助けてくれる人ありの各尺度間、および定期
 考査 5 教科の各教科・合計得点との相関分析
 結果

受容的關係 因子	教育的姿勢 因子	厳しき因子	担当受容的 関係因子平均	担当教育的 姿勢因子平均	担当厳しき 因子平均	好き平均	得意平均	ポジティブ 因子	ネガティブ 因子	先生との 関係因子	クラスとの 関係因子	5教科計	
受容的關係因子	1	.658**	.205**	.501**	.477**	.240**	.237**	.177**	.211**	.025	.227**	.227**	.188**
教育的姿勢因子	.658**	1	.293**	.357**	.445**	.322**	.144**	.150**	.116*	.116*	.157**	.133**	.091*
厳しき因子	.205**	.293**	1	.303**	.276**	.425**	.176**	.131**	.104*	.000	.133**	.151**	.084
担当受容的關係因子平均	.501**	.357**	.303**	1	.894**	.521**	.464**	.316**	.293**	-.058	.365**	.268**	.244**
担当教育的姿勢因子平均	.477**	.445**	.276**	.894**	1	.559**	.422**	.302**	.250**	-.019	.314**	.233**	.226**
担当厳しき因子平均	.240**	.322**	.425**	.521**	.559**	1	.192**	.142**	.090*	.132*	.137**	.120**	.070
好き平均	.237**	.144**	.176**	.464**	.422**	.192**	1	.705**	.396**	-.159**	.304**	.322**	.357**
得意平均	.177**	.150**	.131**	.316**	.302**	.142**	.705**	1	.444**	-.232**	.352**	.371**	.444**
ポジティブ因子	.211**	.116*	.104*	.293**	.250**	.090*	.396**	.444**	1	-.459**	.613**	.724**	.195**
ネガティブ因子	.025	.116*	.000	-.058	-.019	.132**	-.159**	.232**	-.459**	1	-.372**	-.427**	-.090
先生との関係因子	.227**	.157**	.133**	.365**	.314**	.137**	.304**	.352**	.613**	-.372**	1	.753**	.141**
クラスとの関係因子	.227**	.133**	.151**	.268**	.233**	.120**	.322**	.371**	.724**	-.427**	.753**	1	.204**
5教科計	.188**	.091*	.084	.244**	.226**	.070	.357**	.444**	.195**	-.080	.141**	.204**	1

$p < .01$, * $p < .05$

** p < .01, * p < .05

Table32 助けてくれる人なしの各尺度間、および定期
 考査 5 教科の各教科・合計得点との相関分析
 結果

	受容的關係 因子	教育的姿勢 因子	厳しき因子	担当受容的 関係因子平均	担当教育的 姿勢因子平均	担当厳しき 因子平均	好き平均	得意平均	ポジティブ 因子	ネガティブ 因子	先生との 関係因子	クラスとの 関係因子	5教科計
受容的關係因子	1	.801**	-.175	.569**	.578**	.308*	.339**	.226	.137	.491**	.283*	.209	.409**
教育的姿勢因子	.801**	1	.279*	.576**	.670**	.465**	.364**	.202	.047	.554**	.190	.103	.294*
厳しき因子	-.175	.279*	1	.211	.272*	.459**	.165	.261*	.212	.187	.086	.166	.131
担当受容的關係因子平均	.569**	.576**	.211	1	.923**	.621**	.493**	.261*	.089	.352**	.358**	.138	.193
担当教育的姿勢因子平均	.578**	.670**	.272*	.923**	1	.691**	.492**	.264*	.050	.382**	.226	.085	.252
担当厳しき因子平均	.308*	.465**	.459**	.621**	.691**	1	.269*	.127	.117	.159	.166	.200	.271*
好き平均	.339**	.364**	.165	.493**	.492**	.269*	1	.716**	.176	.230	.129	.106	.308*
得意平均	.226	.202	.261*	.261*	.264*	.127	.716**	1	.539**	.008	.208	.287*	.385**
ポジティブ因子	.137	.047	.212	.089	.050	.117	.176	.539**	1	-.427**	.461**	.698**	.107
ネガティブ因子	.491**	.554**	.187	.352**	.382**	.159	.230	.008	-.427**	1	-.208	-.442**	.258*
先生との関係因子	.283*	.190	.086	.358**	.226	.165	.129	.208	.461**	-.208	1	.638**	.020
クラスとの関係因子	.209	.103	.166	.138	.085	.200	.106	.257*	.698**	-.442**	.638**	1	.067
5教科計	.409**	.294*	.131	.193	.252	.271*	.308*	.385**	.107	.258*	.620	.067	1

* $p < .01$. ** $p < .05$

** p < .01, * p < .05

2.4. 考察

2.4.1. 因子分析

①「教員への期待特性」の因子分析

「受容的關係因子」には、①親しみやすく、自分たちのことを理解し、認めてくれ、相談しやすいと感じるような温かく優しい教員、②約束を守り、平等でけじめのある教員、③元気でおもしろく授業がわかりやすい教員という3つの側面が含まれている。自分たちのことを理解し認めてくれる教員は、親しみやすく相談もしやすい。相談をするなら、秘密を守り分け隔てなく接してくれる教員がいい。自分の話を聞いてくれる教員の話なら自分も聞こうと思うから、授業に耳を傾ける。その結果、授業がわかりやすいと感じるというようになつながらが想定できる。また、このような教

員に対し、生徒はあこがれる気持ちを持っていることも明らかとなった。

「教育的姿勢因子」は、真面目で几帳面、知識が豊富で、品行方正な様子を示す項目が集まった。また、「おこらない先生」が「受容的關係因子」ではなく、「教育的姿勢因子」に含まれることは、興味深い結果であった。

「厳しき因子」は、厳しさ、こわさ、迫力の3項目で、他の因子と比べ明確に区別しやすい因子であることが明らかとなった。

「指導に一貫性のある先生」に関しては、「教育的姿勢因子」とも「厳しき因子」とも取れることが、また、「熱心な先生」については、「受容的關係因子」だけではなく「厳しき因子」にも負荷し、「正義感の強い先生」については、3因子すべてに同程度の負荷を示した。これらの項目は、生徒の感覚や教員との関係次第で捉え方が変わることが明らかとなった。

α 係数の値は、「教育的姿勢因子」で0.791、「厳しき因子」で0.752とやや低めではあったが、いずれも良好な値が得られた。

②「自尊感情尺度」の因子分析

田邊・米澤(2009)では、自己効力感と自己受容感の2因子構造となっていたが、本研究では、「ポジティブ因子」・「ネガティブ因子」の2因子構造が示された。この理由としては、対象者が中学生であり、内容よりも単純にプラスかマイナスのイメージで判断し回答した結果ではないかと考えられる。

③「自己有用感尺度」の因子分析

栃木県総合教育センター(2013)による因子分析の結果では、自己有用感を存在感・承認・貢献の3つの因子で捉えていたが、本研究では、教員との関係と、クラスとの関係の2因子構造として抽出された。この理由についても、「自尊感情尺度」同様、内容よりも、誰との関係かという表面的な言葉が優先されて回答した結果が要因の1つではないかと考えられる。

2.4.2. 各尺度間、5教科計との相関分析

①「教員への期待特性尺度」を用いた相関分析(case 1)

各尺度間の相関は、「クラスとの関係因子」は「ポジティブ因子」・「先生との関係因子」との間に強い正の相関が、「受容的關係因子」は「教育的姿勢因子」と、「ポジティブ因子」は「先生との関係因子」との間にそれぞれ中程度の正の相関が、「受容的關係因子」は「厳しき因子」・「ポジティブ因子」・「先生との関係因子」・「クラスとの関係因子」と、「教育的姿勢因子」は「厳しき因子」・「先生との関係因子」との間にそれぞれ弱い正の相関が確認できた。また、「ネガティブ因子」は「ポジティブ因子」・「クラスとの関係因子」との間

に中程度の負の相関が、「先生との関係因子」との間に弱い負の相関が認められた。自分自身にポジティブな感情を持つことと自己有用感が高いことには関連があり、自分自身にネガティブな感情を持つことと自己有用感が低いことには関連があることは先行研究同様の結果が得られた。また、教員に受容的な関係を望むことは、教育的側面を求めることと関連が強いことが、「厳しさ因子」は、「受容的關係因子」より「教育的姿勢因子」との関連のほうがやや強いことが示された。

5教科計と各尺度間の相関については、「受容的關係因子」・「ポジティブ因子」・「クラスとの関係因子」との間に弱いながらも正の相関がみられた。「教育的姿勢因子」・「厳しさ因子」・「先生との関係因子」との相関については、有意ではあったが非常に弱く、また、「ネガティブ因子」とは、ほとんど相関はみられなかった。つまり、教員に受容的な関係を望んだり、自分に対しポジティブであったり、クラスから認められていると感じていることは、5教科計が高いことと関連していることを示している。また、教員から認められることよりも、クラスのみんなからの評価を得ることとの関連の方がわずかではあるが強いことも示された。

②「教員への認知特性尺度」を用いた相関分析(case 2)

各尺度間の相関は、「担当受容的關係因子平均」と「担当教育的姿勢因子平均」、「好き平均」と「得意平均」との間にそれぞれ強い正の相関が示された。「担当受容的關係因子平均」・「担当教育的姿勢因子平均」は「担当厳しさ因子平均」・「好き平均」・「得意平均」・「ポジティブ因子」・「先生との関係因子」・「クラスとの関係因子」との間に中～弱い相関が示された。一方、「担当厳しさ因子」は「好き平均」で弱い相関はみられたが、他の尺度との間にほとんど相関はみられないことが明らかとなった。

また、5教科計との間の相関については、「得意平均」との間に中程度の相関が、「受容的關係因子」・「教育的姿勢因子」・「好き平均」との間に弱い相関がみられた。「厳しさ因子」との相関はほとんどなかった。

③「教員への期待特性尺度」、「教員への認知特性尺度」、5教科計との相関分析

「受容的關係因子」・「教育的姿勢因子」は「担当受容的關係因子」・「担当教育的姿勢因子」との間に中程度の相関が、「厳しさ因子」は「担当厳しさ因子」との間に中程度の相関が示された。この結果から、教員への期待特性と認知特性との関連が高いことが明らかとなった。また、期待特性と「好き」や「得意」という気持ちとの関連はあるものの、弱いものであることも示された。

2.4.3. 重回帰分析

①「教員への期待特性尺度」を用いた重回帰分析(case 1)

「受容的關係因子」と「教育的姿勢因子」の2因子には、「先生との関係因子」・「ポジティブ因子」・「5教科計」の関与が、「厳しさ因子」には、「クラスとの関係因子」の関与が示された。また、相関分析ではほとんど関連がみられなかった「ネガティブ因子」が β の値は大きくはないものの3因子のいずれに対しても関与していることが示された。つまり、教員から評価されていると感じることや、自分に対してポジティブに捉え、5教科の得点が良好である生徒は、教員に受容的な関係や教育的姿勢を求める傾向があることをあらわしている。これらの因子とは、弱いながらも相関分析においても有意に関連がみられた。また、自分に対してネガティブに感じていることは、自信のない自分でも受け入れてくれる温かさ、先生らしさ、厳しさすべてを持ち合わせた教員を望むため、期待特性が高まるのかもしれない。もしくは、自分に対してネガティブということは、理想自体が高く、自分だけではなく教員に対する理想も高くなり、結果としてより多くを求める形になったものとも考えられる。

「自尊感情尺度」については、いずれも「先生との関係因子」・「クラスとの関係因子」の関与が認められたが、「ネガティブ因子」においては負の関与を示した。これらは、相関係数も比較的高く、自己有用感、特に「クラスとの関係因子」が高いことはポジティブな感情に、低いことはネガティブな感情に影響を与えていることが確認できた。「ポジティブ因子」にはそれに加えて5教科計の得点が、「ネガティブ因子」には「教育的姿勢因子」の関与が示された。つまり、テストの得点が高いとポジティブになることが、また、教員に対し教育的姿勢の側面を求める生徒は、ネガティブであることが示された。

「自己有用感尺度」は2因子とも、「ポジティブ因子」・「受容的關係因子」の正の関与が、「ネガティブ因子」はわずかながら負の関与があることが示された。つまり、ポジティブな面が高く、ネガティブな面が低く、教員に対して受容的な関係を求める生徒ほど自己有用感が高いことを示している。

「自尊感情尺度」・「自己有用感尺度」の重回帰分析の結果から、ポジティブになるには、自己有用感を高めること、つまり、まわりに認められることが重要であるし、一方で自己有用感を高めるには、その裏付けとなる自尊感情をポジティブにすることが大切であり、お互いが複雑に絡み合っていると考えられる。この結果は、相関関係においても同様の結果が示されており、先行研究の結果を支持するものである。

5教科計の得点に関しては、「受容的關係因子」と「クラスとの関係因子」の関与が示された。教員に受容的

な関係を求めたり、クラスから評価されていると感じている生徒の5教科計の得点は高くなる傾向があることが示された。

②「教員の認知特性尺度」を用いた重回帰分析(case 2)

5教科計の得点に関しては、「得意平均」と「担当受容的關係因子」の関与が認められた。勉強が得意と思う生徒のテストの得点が高いことは当たり前ともいえるが、担当教員が受容的であると感じていることが、テストの得点に影響を及ぼすという結果については、教科指導上、重要なポイントを示すものである。なお、調整済み R^2 の値は、0.227であり、case 1の0.106よりも寄与率は高い回帰式が得られた。

「好き平均」・「得意平均」は、いずれも「ポジティブ因子」と「5教科計」の関与が示された。また、これらとともに、「好き平均」には「担当受容的關係因子平均」が、「得意平均」には「担当教育的姿勢因子平均」の関与が見られた。つまり、「好き」や「得意」と思う気持ちには、生徒自身がポジティブな感情を持っていること、5教科計の得点が高いことに加え、担当教員の受容的な側面が生徒の教科に対する「好き」と思う気持ちにつながることで、担当教員の先生らしい側面は「得意」と思う気持ちにつながることを示された。なお、 R^2 の値は、「好き平均」が0.362、「得意平均」が0.380であった。

2.4.4. 差に関するt検定

①「教員への認知特性」と「教員への期待特性」とのギャップによる影響に関して

「受容的關係因子差」に関しては、「受容的關係差正群」の生徒の5教科計の得点はすべて、「受容的關係差負群」の生徒よりも、有意に低いという結果が示された。これは、期待よりも実際に授業を担当する教員が受容的であれば、5教科計の得点は低くなるということである。ここで、着目すべき点は、「受容的關係因子」の得点である。この値は、「受容的關係差負群」が、「受容的關係差正群」より有意に高く、教員に対しての期待が高いことがうかがえる。「受容的關係差負群」は、教員に対する期待が大きすぎるため、「負群」になった可能性が考えられる。また、望んでいる以上、つまり必要以上に教員が受容的であることは、むしろ、単なる甘やかashiになってしまうことを示唆しているのではないだろうか。

「教育的姿勢差」に関しては、「担当教育的姿勢平均」、「好き平均」は「教育的姿勢差正群」が有意に高く、「教育的姿勢因子」、「ネガティブ因子」は「教育姿勢差負群」が有意に高いことが明らかとなった。つまり、期待よりも実際の授業担当の教員が先生らしい(教育的姿勢が高い)と思う生徒たちは、教員に対する評価が高く、その教員の担当する教科を好きと感じること

が示唆された。また、逆に、期待するほど実際の担当教員を先生らしく感じていない生徒たちは、教員に対して望むことが高く、そして、自分自身はネガティブであることが示された。教員への期待が大きいことは自分に対しての期待も高く、目標に達することができずネガティブになってしまうことがこの結果からも推察される。

「厳しさ差」に関しては、「厳しさ因子」、「好き平均」、「クラスとの関係因子」のいずれも「厳しさ差負群」が有意に高かった。つまり、期待するほど実際の授業担当の教員が厳しくはないと思う生徒たちは、教員に対して、もっと厳しくても良いと感じ、また、厳しさがあまり感じられない結果、その教科を好きと感じる割合が高くなり、また、厳しくないということは、生徒自身が教員に余計な気を使うことなく自由に発言したり行動したりすることができ、その結果クラスで高く評価されていると感じることが考えられる。

②性別による差に関して

性別による差に関するt検定を行った結果から、「厳しさ因子」・「好き平均」・「得意平均」・「ポジティブ因子」・「先生との関係因子」・「クラスとの関係因子」については男子生徒が有意に高く、「受容的關係因子」・「ネガティブ因子」は女子生徒が有意に高かった。「教員への期待特性尺度」の平均値については、男女ともに「受容的關係因子」が最も高く、「厳しさ因子」は最も低いことは共通していた。男子生徒は、自尊感情も自己有用感も女子生徒に比べて高いため、一定の厳しさの必要性を感じていると考えられる。それに対し、男子生徒よりネガティブで自信がなく、周りの評価も低いと感じている女子生徒は、自分を受け入れてくれる優しく温かい教員を望む傾向が示された。また、男子生徒の方が教科を好き・得意と思う気持ちが強いという結果が示されたが、5教科計の得点においての差はみられなかった。

男女それぞれの相関については、男子生徒は「ネガティブ因子」との相関を除き、他のすべての因子間・5教科計の得点との間に有意な正の相関が認められ、全般的に女子生徒よりも強い相関を示した。男子生徒は、因子それぞれがより強く関連し合っていることが明らかとなった。「ネガティブ因子」との相関に関しては、特に、「ポジティブ因子」・「先生との関係因子」・「クラスとの関係因子」において、女子生徒が男子生徒よりも強い負の相関を示していた。女子生徒の自尊感情の低さと自己有用感の低さがより強く関連し合っていることも確かめられた。また、女子生徒は、5教科計との相関は「好き平均」・「得意平均」を除き、ほとんど無相関、あってもごく弱い相関しか示されなかったが、男子生徒は「厳しさ因子」・「担当厳しさ因子」・「ネガティブ因子」以外の因子とは強くはないも

ののすべて有意な相関を示していた。

③相談できる人の有無に関して

相談できる人の有無による t 検定を行った結果から、「ネガティブ因子」以外のすべての因子において、相談できる人がいると思う生徒の平均値が有意に高いことが示された。「ネガティブ因子」については、相談できる人がいないと思う生徒の平均値が有意に高かった。相談できる人がいると思うことは、教員への期待も評価が高く、自分に対してポジティブで、自己有用感も高く、5教科計の得点も高いことが示された。一方、相談できる人がいないということは、学習面での躓を相談や質問できる相手もおらず、結果、わからないことはわからないままになっている可能性も考えられる。

相談できる人の有無によるそれぞれの相関を調べた結果、全般的に相談できる人がいないと思う生徒のほうが、相関が強いものが多かった。特に顕著であったのが、「ネガティブ因子」と「受容の関係因子」・「教育的姿勢因子」との相関で、相談できる人がいると思う生徒ではほとんど相関がなかったが、相談できる人がいないと思う生徒では中程度の正の相関がみられた。また、5教科計の得点と教員の期待特性・認知特性との相関は、相談する人がいると思う生徒ではほとんど相関がないかごくわずかな相関であったが、相談する人がいないと思う生徒は、中～弱い相関がみられた。相談する人がいないと思う生徒のほうが、教員への期待や評価が高いことと5教科計の得点が高いこととの関連が強いことが明らかとなった。

④助けてくれる人の有無に関して

助けてくれる人の有無による t 検定を行った結果から、相談できる人の有無と同様、「ネガティブ因子」以外のすべての因子において、助けてくれる人がいると思う生徒の平均値は有意に高く、「ネガティブ因子」についてのみ、助けてくれる人がいないと思う生徒の平均値が有意に高かった。相談できる人の有無よりも顕著な結果が示された。

それぞれの相関関係については、相談できる人の有無による差ほど差は顕著ではなかった。全体的には、相談できる人の有無と似た傾向を示した。しかし、「教員への期待特性尺度」と「教員への認知特性尺度」の

相関については、「相談できる人あり」より「助けてくれる人あり」の方が、「助けてくれる人なし」より「相談できる人なし」の方の相関がやや強い傾向がみられた。ただし、「相談できる人なし」と「助けてくれる人なし」と答えた生徒の数は60名程度と少なかったため、今後さらなる研究が必要と考える。

引用文献

- 濱上武史・米澤好史(2008)．「やる気」の構造に関する研究－教師認知、学級雰囲気認知、学習観との関係－ 和歌山大学教育学部研究紀要(教育科学)，**59**，35-43.
- 石川靖彦・神谷紗由美(2014)．中学校入学後の定期テストの結果評価が学習動機づけに及ぼす影響－目標点との比較と平均点との比較－ 日本教育心理学会第58回総会発表論文集，757.
- 金田泰弘・岡直樹(2006)．算数科における学力や学習意欲を高める指導法について 日本教育心理学会総会発表論文集，**48**巻，681.
- 岸和田市教育委員会(2017)．岸和田の子どもたちに確かな学力を！
- 小柴孝子、武田明典、村瀬公胤 2014 中・高校生が求める理想の教師像－「教職実践演習」カリキュラム開発のために－ 神田外語大学紀要，**26**，489-509.
- 森下詩織・坂本美紀(2014)．小学生が認知する教師の潜在的影響力－回想法による調査－日本教育心理学会第56回総会発表論文集，268.
- 文部科学省国立教育政策研究所生徒指導・進路指導研究センター(2015)生徒指導リーフ 「自尊感情」？それとも「自己有用感」？Leaf.18.
- 中井大介・庄司一子(2009)．中学生の教師に対する信頼感と過去の教師との関わり経験との関連 教育心理学研究，**57**，49-61.
- 大阪府教育庁(2017)．平成29年度全国学力・学習状況調査の結果概要．
- 菅千索、片田博一(1987)“よい教師像”についての心理学的一考察－生徒の個別指導に注目して－ 和歌山大学教育学部紀要，**36**，99-107.
- 田邊恭子・米澤好史(2009)．母親の子育て観からみた母子の愛着形成と世代間伝達－母親像に着目した子育て支援への提案－ 和歌山大学教育学部教育実践総合センター紀要，**19**，19-28.
- 栃木県総合教育センター(2013)．高めよう！自己有用感 ～栃木の子ども達の現状と指導の在り方～．
- 米澤好史(2015a)．学校現場における学校心理学研究の動向と課題 教育心理学年報，**Vol.54**，112-125.
- 米澤好史(2015b)「愛情の器」モデルに基づく愛情修復プログラム 福村出版．